

2019 年度以降に 1 年生から入学する方向け

2021 年度以降に 3 年生から編入学する方向け

福島大学アドミッションポリシー・・・P 1
人間発達文化学類・・・・・・・・・・P 2
行政政策学類・・・・・・・・・・P 3
経済経営学類・・・・・・・・・・P 4
共生システム理工学類・・・・・・・・P 5
食農学類・・・・・・・・・・P 6

2019 年度，2020 年度に 3 年生から編入学する方向け

福島大学アドミッションポリシー・・・P 7
人間発達文化学類・・・・・・・・・・P 8
行政政策学類・・・・・・・・・・P 9
経済経営学類・・・・・・・・・・P 10
共生システム理工学類・・・・・・・・P 11
現代教養コース・・・・・・・・・・P 12

////////////////////////////////////

福島大学大学院アドミッションポリシー

人間発達文化研究科・・・・・・・・・・P 13
地域政策科学研究科・・・・・・・・・・P 14
経済学研究科・・・・・・・・・・P 15
共生システム理工学研究科（博士課程前期）・・P 16
共生システム理工学研究科（博士課程後期）・・P 18

2019 年度以降に 1 年生から入学する方向け

2021 年度以降に 3 年生から編入学する方向け

福島大学の教育目標

福島大学は、正規課程および課外活動等のあらゆる機会を捉えて、自ら学び、主体的な人生設計と職業選択を行うことのできる自立した人間の育成をめざします。

また、東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故からの学びを活かし、「新たな地域社会の創造」に取り組み、人口減少や高齢化、環境・資源・エネルギー問題などの地域および世界の「21 世紀的課題」を自分事として捉え、複雑かつ困難な課題に果敢に挑戦する人材の育成を目標に掲げます。

そのために「問題基盤型学習」を教育理念としたカリキュラムを備え、確かな専門知識や技術、実践的なスキル、「解のない問い」に挑む態度などを身につけます。

福島大学の求める学生像（福島大学のアドミッション・ポリシー）

福島大学では、以下の要件を満たす学生を募集します。なお、「求める学生像」の具体的内容は、学類のアドミッション・ポリシー（AP）で示します。

1. 福島大学の教育目標を理解していること
2. 地域や社会の発展に貢献する志をもつこと
3. そのために、選択した領域の専門知識、問題を発見し探究する力、広い教養と知的関心、グローバルな視野、主体的に多様な人々と協働する力、を自ら向上させようとする意欲があること
4. 福島大学での学士課程教育を受けるにふさわしい基礎的学力、思考力・表現力・コミュニケーション能力、現実の問題や学問への能動的姿勢を持っていること

〔人間発達文化学類〕

1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、生涯にわたる発達への支援や、人間の発達を支える社会・文化への支援を通じて、学校はもちろんのこと、行政や企業、地域社会で活躍することを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間の発達を支援する教育および文化についての専門知識や技術を習得し活用する力
- ・現代的課題や地域的課題への問題意識をもち、個々の事象を複数の観点から捉える力
- ・人や文化の多様性を理解し、共感的態度をもって価値観や考え方の違いを超えた関係を築く力
- ・学問固有の問いの立て方、ものの見方・考え方を身に付け、それらを活用しつつ社会の改善に向けて探究し表現する力

人間発達文化学類には、教育実践、心理学・幼児教育、特別支援・生活科学、芸術・表現、人文科学、数理自然科学、スポーツ健康科学の7つコースがあり、1年生の前期（第1 Semester）から各コースのいずれかに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

[一般入試・前期日程] 募集人数 166人

[一般入試・後期日程] 募集人数 19人

[推薦入試] 募集人数 20人

[推薦入試] 募集人数 55人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照下さい。

3. 入試の際に求める知識・技能・関心

各コースで養成する人間発達支援者は、人間に対する理解だけでなく、高校で学んだ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの知識・技能を基に新たな知識や技術を身に付けます。本学類では、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 高校時代までの基礎的な学力・実技能力
- (2) 得意分野に関する優れた理解・技能（以下のうち1つ以上）
 - ・得意な教科や領域の意味内容を良く理解している。
 - ・運動・スポーツにおける優れた技能・実績を有している。
- (3) 教育・人間・文化・社会への問題意識、および人間発達支援に対する強い意志

〔行政政策学類〕

1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の5つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。特に夜間主は、働きながら学ぶ人、様々な社会経験をもとに学びたいと考える人を対象とします。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸課題につき、解決する能力
- ・学際的な創造力で社会に貢献する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類には、「地域政策と法コース」「地域社会と文化コース」の2コースがあり、2年生の前期（第3 Semester）からいずれかのコースに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

[昼間の一般入試・前期日程] 募集人数 108 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

[昼間の一般入試・後期日程] 募集人数 35 人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

[昼間の推薦入試] 募集人数 42 人

調査書（評定平均4.3以上）、志願理由書（「法・地域・社会・文化について関心がある者」）提出を推薦要件とし、個別学力検査（小論文）と面接によって実施。

[夜間主のアドミッション・オフィス（AO）入試] 募集人数 20 人

志願理由書に基づいた口頭試問によって実施。

3. 入試の際に求める知識・技能・関心

21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身に付けるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力（以下のうち1つ以上）

- ・国語，地歴公民，理科，数学，外国語について，修学に必要な知識を有している。
- ・上記科目のうち，いずれか3科目について，優れた知識を有している。

(2) 現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力（以下のうち1つ以上）

- ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力
- ・政治，経済，社会的な問題などに関心を持ち，深く考察する態度
- ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力あるいは論点整理力

〔経済経営学類〕

1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、経済と経営の専門知識を身に付け、現代の経済社会を理解し、課題解決に実践的に取り組む人材を養成することを目標とし、卒業までに次の知識および能力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・ 経済学と経営学の専門知識
- ・ エビデンスにもとづいて論理的に思考する力
- ・ フィールドを通じて社会の課題に主体的に取り組む力
- ・ グローバルに思考し実践に進む力
- ・ キャリアを見据え自立し協働する力

経済経営学類には、「経済学コース」「経営学コース」の2コースがあり、2年生の後期（第4 Semester）からいずれかのコースに所属することになります。

2. 入学試験の種類と内容

本学類では、次の入学試験を実施します。

- [一般入試・前期日程] 募集人数 115人
- [一般入試・後期日程] 募集人数 40人
- [推薦入試・A推薦] 募集人数 20人
- [推薦入試・B推薦] 募集人数 30人
- [推薦入試・C推薦] 募集人数 10人
- [専門学科・総合学科卒業生入試] 募集人数 5人

入学試験の内容は、後述の該当部分を参照ください。

3. 入試の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる能力と、社会での実践力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力

：国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。

(2) 読解力・思考力・知識活用力・表現力

(3) 現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲

(4) 得意分野に関する優れた学力・実績（推薦入試および専門学科・総合学科卒業生入試に該当）

：推薦入試および専門学科・総合学科卒業生入試では、上記の(1)・(2)・(3)に加え、以下の点を評価します。

推薦入試（以下のうち1つ以上）

A推薦：行動力や創造力に基づいた、特記すべき活動歴を有している。

B推薦：簿記・情報関連に対する優れた知識、ないし関連資格を有している。

C推薦：英語等の外国語に関する優れた知識、ないし関連資格を有している。

専門学科・総合学科卒業生入試

簿記、情報等の実践的科目に対する優れた知識を有している。

〔共生システム理工学類〕

1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

共生システム理工学類では、21世紀の社会が抱える諸課題に挑戦でき、人・産業・環境が共生する社会の構築に貢献できる人材を育成することを目標に掲げています。共生を科学する新しい教育・研究システムの下で、卒業までに次の4点を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- ・論理的で的確な立案力と決定力
- ・学際的・国際的に実践する力
- ・積極的かつ持続的な貢献意識

共生システム理工学類では、1年生で数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミング等の理工系の基礎科目を学ぶとともに、「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・系統的に捉える力を養います。2年生の前期(第3セメスター)から専門領域名を冠した9つのコース*の中から1つを選択して専門領域を深く学び、3年生の後期(第6セメスター)からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。

*9コース：数理・情報科学コース、経営システムコース、物理・システム工学コース、物質科学コース、エネルギーコース、生物環境コース、地球環境コース、社会計画コース、心理・生理コース

2. 入学試験の種類と内容

本学類では4種類の入学試験を実施します。それぞれの入学試験の科目などは以下のとおりです。

[アドミッション・オフィス(AO)入試] 募集人数 25人

高等学校までの学習全般を含む総合問題、自ら設定した課題についてのポスターを用いた発表と口頭による質疑、志願理由書および調査書により、高等学校の基礎的な学力、論理的な思考力のある人を選抜します。特に持続的な探求意欲と行動力のある人を期待します。

[推薦入試] 募集人数 20人

小論文、面接、志願理由書および調査書により、基礎学力、理解力、論理的な思考力と表現能力を持つ人を選抜します。調査書の全体の評定平均値が4.0以上の人を対象としており、高等学校の間に勤勉な学習を重ねた人を期待します。

[3年次編入学] 募集人数 若干名

高等専門学校を卒業見込みの者を対象に、面接と提出書類(志願理由書、推薦書、調査書)により、本学類で学ぶために必要な基礎的な学力をもち、学習意欲が高い人を選抜します。

[一般入試] 募集人数 前期日程 70人、後期日程 45人

理科1科目および数学(前期)または数学(後期)の記述試験による個別学力検査、センター試験(5教科7科目)および調査書により、基礎的な科目を広く習得し、理系科目の柔軟な思考力と応用力がある人を選抜します。

3. 入試の際に求める知識・技能・関心

本学類で学び成長するために、以下に掲げる力を有している学生を求めます。

- (1) 高校までに身につけるべき基礎学力
- (2) 論理的な思考力
- (3) 自然現象や様々な課題を観察し分析する力
- (4) 観察し分析した結果や自らの考えを表現する力

農学群

〔食農学類〕

1. 食農学類の教育目標と求める学生像

食農学類では、食品産業や農林業の第一線で活躍することや、行政や教育機関などで食品産業や農林業を支えることを目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・ 農学の専門知識を関連産業や地域社会の実践的な取り組みにつなげる力
- ・ 異なる専門分野との学際的な交流によってチームプレイを推進できる力
- ・ グローバルな科学的知見や国際比較の情報を地域の課題解決に活かす力
- ・ 温かい眼差しと冷静な分析力によって地域社会への貢献を持続できる力

食農学類では、2年生の後期(第4セメスター)から、食品科学コース、農業生産学コース、生産環境学コース、農業経営学コースのいずれかに所属することになります。各コースは、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身に付けた人材の養成を目標としています。

- ・ 食品科学コース：食品の分析について専門的な知識・技能を身に付けている。優れた食品の製造について知識・技能のポイントを修得するとともに、地域の食の伝統的な強みを活かす筋道を具体的に理解している。
- ・ 農業生産学コース：果樹・園芸等を含めて作物学の専門的な知識・技能を修得している。病害虫管理や土壌肥料の原理を学ぶことにより、安全な作物生産や環境保全型農業の基本課題を深く理解している。
- ・ 生産環境学コース：森林・農地・水利施設等の生産環境の実態を把握し、管理・活用システムを体系的に理解している。生産環境の修復やICT等の最先端技術導入などの実践的な課題に取り組むこともできる。
- ・ 農業経営学コース：農林業や食品産業の活動を社会科学の観点から分析する知識・技能を修得している。農商工連携などの新潮流の情報に詳しく、協同組合や共有資源の役割についても深く理解している。

2. 入学試験の種類と内容

食農学類では期待する人材を求めて、4種類の入学試験を実施いたします。

それぞれの入学試験の科目などは以下のとおりです。

〔一般入試・前期日程〕募集人数60名

センター試験の5教科7科目(国語、地理歴史・公民(1科目)、数学(2科目)、理科(2科目)、外国語)、個別学力試験の2科目(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物、数学(数学・数学A・数学B)、英語から2科目選択)で実施。

〔一般入試・後期日程〕募集人数20名

センター試験の5教科7科目(国語、地理歴史・公民(1科目)、数学(2科目)、理科(2科目)、外国語)、個別学力試験の1科目(数学(数学・数学A・数学B)、英語から1科目選択)、および面接で実施。

〔アドミッション・オフィス(AO)入試・地域社会貢献枠〕募集人数概ね10名

自己推薦書と調査書によって第1次選抜を行い、第1次選抜合格者を対象として課題論文と面接による第2次選抜を実施。

福島県内の高等学校等を卒業もしくは卒業見込みの者で、福島県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等の次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つもの、あるいは福島県外の高専等を卒業もしくは卒業見込みの者で、福島県内か出身県内の農業、農業関連産業、食品関連産業、農林水産行政機関等で次世代の担い手として活躍する強い意欲を持つもので、指定する資格のいずれかを取得しているものを対象とします。

〔アドミッション・オフィス(AO)入試・実践教育経験枠〕募集人数概ね10名

自己推薦書と調査書によって第1次選抜を行い、第1次選抜合格者を対象として課題論文と面接による第2次選抜を実施。

高等学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉に関する学科)、総合学科、あるいは中等教育学校専門学科(農業、工業、商業、情報、水産、家庭、看護、福祉に関する学科)を卒業見込みの者、または高等専門学校の第3学年を修了見込みの者で、農学を学ぶ強い意欲を持ち、かつ、指定する資格のいずれかを取得しているものを対象とします。

2019年度, 2020年度に3年生から編入学する方向け

【福島大学のアドミッション・ポリシー】

(1) 求める学生像

福島大学では、「地域と共に歩む人材育成大学」として長年にわたり地域社会で活躍できる人材を育成してきました。さらに、東日本大震災・原発事故からの学びを活かして「新たな地域社会の創造」に貢献でき、人口減少や少子高齢化、資源・エネルギー問題などの「21 世紀的課題」が加速する福島をフィールドに、現代社会にイノベーションをもたらすことのできる人材を育成しようとしています。本学ではこうした理念を実現するために、大学での専門的な学習に必要な基礎学力と、現代社会への問題意識とその解決への意志を持ち、コミュニケーション能力や協働的な問題解決能力、建設的な批判的思考力、創造力の向上を目指す学生を広く求めます。

(2) 入学者選抜の基本方針

入学者選抜試験は学類ごとに実施し、各学類のアドミッション・ポリシーに適合した人材としての資質を総合的に判断します。

【人間発達文化学類のアドミッション・ポリシー】

1. 人間発達文化学類の教育目標と求める学生像

人間発達文化学類では、教員をはじめ地域や企業などで活躍できる広義の教育者（人間発達支援者）を目指す意欲を持ち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・人間および文化に対し、それらの仕組みや相互関係について「理解し探究する力」
- ・主体的に現実にふれ、働きかける「人や文化と関わる力」
- ・課題を発見し知識や技術を通して「解決し創造する力」
- ・上記3つを基礎として、全体として人間の発達を支援し文化を育んでいく「教え育む力」

人間発達文化学類には、人間発達専攻、文化探究専攻、スポーツ・芸術創造専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は次の通りです。

- ・人間発達専攻では、教育の現実や歴史に対する知見や、確かな心理学的知見、乳幼児期から生涯にわたる人間の発達、特別な教育的ニーズ等に強い関心があり、将来、関連分野で子どもたちを支援する職業等につきたいと考えている学生を求めます。
- ・文化探究専攻では、人間の発達にかかわる言語文化、地域文化、生活科学、数理科学について、それぞれの学問内容を深めるとともに、領域相互の関連性や応用性を追求し、その成果を教育現場や社会の中で生かしていこうとする学生を求めます。
- ・スポーツ・芸術創造専攻では、スポーツ・芸術分野や教育現場において広く活躍する専門家を育成することをめざして、これらの分野に強い関心を持ち、高い技能と深い探求心をもつ学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

人間発達支援者には、人間に対する理解だけでなく、高校で学ぶ人文科学や社会科学、生活科学、数理科学、芸術、スポーツなどの広い知識が必要です。大学において新たな知識や技術を身につけるために、以下に挙げる知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力・実技能力

(2)得意分野に関する優れた理解・技能（以下のうち1つ以上）

- ・得意な教科や領域の意味内容をよく理解している。
- ・スポーツにおける優れた実績を有している。
- ・音楽や美術において優れた技量を有している。

(3)教育・人間・文化・社会への問題意識、及び人間発達支援に対する強い意志

【行政政策学類のアドミッション・ポリシー】

1. 行政政策学類の教育目標と求める学生像

行政政策学類では、21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すために、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える学生を受け入れます。

- ・法・地域・行政・社会・文化等の研究分野に関する基礎的かつ専門的知識
- ・国・地域・社会における諸問題を自ら発見し、調査・分析する能力
- ・発見し、調査・分析した諸問題につき、解決する応用的能力
- ・修得した知識・考察した結果を発表し、議論する能力

行政政策学類では、2年生の前期（第3セメスター）から、法学専攻、地域と行政専攻、社会と文化専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識及び能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・法学専攻：リーガルマインド（「法的な思考」）を身につけた上で、市民としての政治参加、裁判員制度、企業法務、公務員としての法的実践などに適応し、国および地域の法的問題を自ら発見・解決することができる。
- ・地域と行政専攻：政治・行政・社会にかかわる研究分野の基礎的知識と、地域の固有性と多様性に対する調査能力・思考力を身に付けたうえで、地域社会の諸問題の解決に向けて積極的に貢献することができる。
- ・社会と文化専攻：社会学、歴史学、教育学、文化研究等についての専門的知識と学際的知識、及び調査・情報解読能力を身につけた上で、現代社会、地域社会、歴史理解、異文化理解、国際交流等にかかわる問題をみずから発見・考察し、その解明・解決の方向性を見出すことができる。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

21世紀の地域社会が直面している諸課題について、広く学際的な観点から学び、より暮らしやすい健康で文化的な地域社会を作り出すための能力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1)高校時代までの基礎的な学力（以下のうち1つ以上）

- ・国語、地歴公民、理科、数学、外国語について、修学に必要な知識を有している。
- ・上記科目のうち、いずれか3科目について、優れた知識を有している。

(2)現代社会や地域の諸課題に関する理解力・思考力・分析統合力・表現力（以下のうち1つ以上）

- ・読書や論理的な文章を書く習慣に基づく長文の読解力・要約力
- ・政治・経済、社会的な問題などに関心を持ち、深く考察する態度
- ・意見交換によって解決策を考えだすための発言力或いは論点整理力

推薦入試では、上記の(1)・(2)に加え、以下の点を評価します。

- ・新しい地域社会づくりに関心を持ち、地域社会の発展に貢献しようとする意欲、及び流動的な社会の変化に対応し、過去に例のない課題に対して果敢に挑む意欲

【経済経営学類のアドミッション・ポリシー】

1. 経済経営学類の教育目標と求める学生像

経済経営学類では、現代社会で起こっている様々な問題に関心を持ち、それらを経済・経営の視点でとらえ、社会で実践するために、卒業までに次の3つの力を身につけたいと考える学生を受け入れます。

- ・経済学士として経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識を適切に応用し実践する力、問題を解決する力
- ・幅広い教養と経済学・経営学分野の基礎的・専門的知識に基づいて、現実を分析し、論理的に思考する力
- ・職業人、生活者として自立し、社会的・倫理的な観点から自らを律する力

経済経営学類では、2年生の後期（第4セメスター）から、経済分析専攻、国際地域経済専攻、企業経営専攻の3つの専攻のいずれかに所属することになります。各専攻は、次のような基礎的・専門的な知識と能力を身につけた人材の育成を目標としています。

- ・経済分析専攻：ミクロ・マクロ経済学での諸議論を通して経済のしくみを体系的に理解し、得られた知識を金融・公共経済をはじめとした経済システムの分析とそのあり方に関する実践的な考察に応用することができる人材
- ・国際地域経済専攻：経済学的素養に基づく理論的・歴史的・政策的見地に加えてグローバルな知識を身につけて今日の経済社会を理解し、国際社会と地域社会の課題に理論的・実践的に取り組むことができる人材
- ・企業経営専攻：企業活動に対し、外部環境を踏まえて定量的・定性的に分析するための専門的知識を有し、それを応用して企業およびその他組織における適切な意思決定ができる基礎的力量を身につけている人材

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

現代社会で起こっている様々な問題を経済・経営の視点でとらえる力および社会で実践する力を大学において身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

(1) 高校時代までの基礎的な学力

- ・国語、外国語、地歴公民、数学、理科について、修学に必要な知識を有している学生

(2) 文章を正確に理解する読解力、文章内容に基づき論点・課題を論理的に考察する思考力、自らの考えを的確にまとめる知識活用力・表現力を有している学生

(3) 現代社会で起こっている様々な問題に対する関心・意識と勉学意欲を持つ学生

(4) 得意分野に関する優れた学力・実績（推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試に該当）を有している学生

推薦入試及び専門学科・総合学科卒業生入試では、上記の(1)・(2)・(3)に加え、以下の点を評価します。

● 推薦入試（以下のうち1つ以上）

- 行動力や創造力に基づいた、特記すべき活動歴を有していること
- 簿記・情報関連に対する優れた知識、ないし関連資格を有していること
- 英語等の外国語に関する優れた知識、ないし関連資格を有していること

● 専門学科・総合学科卒業生入試

- 簿記、情報等の実践的科目に対する優れた知識を有していること

【共生システム理工学類のアドミッション・ポリシー】

1. 共生システム理工学類の教育目標と求める学生像

人間について知りたい、ものづくりや企業経営に興味がある、自然や環境を調べたい、の少なくともどれか一つに当てはまり、人間社会の抱える問題に関心がある皆さんの入学を歓迎します。本学類での学習は、高校までの数学・理科を基礎に発展させますが、変化を続ける人間社会とその課題を理解する力も必要です。そのため、この学類への入学と勉学に強い意欲を持つ人を対象に、本学で学ぶために必要な基礎学力、柔軟な思考力、分析・観察力を評価し、入学者を選抜します。なお、入学の1年後には専攻配属が行われます。

各専攻の教育は以下のような特色をもっています。

【人間支援システム専攻】

人理解や人間支援又はそれらの基礎となる分野に強い関心があり、卒業後、人間支援技術分野で活躍したいと考えている人、特に、心理学や生理学などの生体システム科学、情報工学や機械・電気・電子工学などを基礎とする人間支援の技術開発に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている人理解と人間支援に必要な基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

【産業システム工学専攻】

ものづくりが好きで企業経営にも強い関心があり、卒業後、製造業、起業家、弁理士などの産業支援分野で活躍したいと考えている人、特に、化学工学、材料工学などを基礎とする環境負荷の少ないものづくり技術や、情報工学、経営工学、数理科学およびそれらを基礎とする省資源・循環型社会システムの構築に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっているものづくりに必要な基礎・専門科目と産業社会システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

【環境システムマネジメント専攻】

水資源などを中心とした自然資源の確保・保全に強い関心があり、卒業後、環境管理者、環境計量士、公害防止者として活躍したいと考えている人、環境分析化学、浄化学、生態学や地域計画、流域管理計画などを基礎とする環境システムの学習に強い関心と意欲のある人を求めます。

この専攻では、他大学では複数学科にまたがっている環境の科学と保全・管理に必要な環境システムに関する基礎・専門科目を総合的に学ぶことができます。

入学試験の種類 本学類に入学していただくには、以下の4種類の入試があります。

アドミッション・オフィス (AO) 入試 (募集人数 30人)

高等学校までの学習全般を含む総合問題、自ら設定した課題についてのポスターを用いた発表と口頭による質疑、志願理由書および調査書により、高等学校の基礎的な学力、科学的思考力のある人を選抜します。特に持続的な探求意欲と行動力のある人を期待します。

推薦入試 (募集人数 20人)

小論文、面接、志願理由書および調査書により、基礎学力、理解力、論理的な思考能力と表現能力を持つ人を選抜します。調査書の全体の評定平均値が4.0以上の人を対象としており、高等学校の間に勤勉な学習を重ねた人を期待します。

3年次編入学 (募集人数 若干名)

高等専門学校を卒業見込みの者を対象に、面接と提出書類(志願理由書、卒業研究概要、推薦書、調査書)により、志望する専攻で学ぶために必要な基礎的な学力をもち、専攻分野での学習意欲が高い人を選抜します。

一般入試 (募集人数 前期日程 80人, 後期日程 50人)

理科1科目および数学(前期)または数学(後期)の記述試験による個別学力検査、センター試験(5教科7科目)および調査書により、基礎的な科目を広く習得し、理系科目の柔軟な思考力と応用力がある人を選抜します。

【現代教養コースのアドミッション・ポリシー】

1. 現代教養コースの教育目標と求める学生像

現代教養コースでは、現代社会が直面する問題を解決するための“新しい教養”を身につける意欲をもち、卒業までに次の4つの力を身に付けたいと考える社会人を学生として受け入れます。

- ・ 職業に関わる専門的知識・技能の修得を望む学生
- ・ 現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する 社会人としての教養を求める学生
- ・ 人間性を探求する 生きがいとしての教養を求める学生
- ・ 働きながら、生活や職業という実体験をもとにして、主体的に学習を深めることを望む学生

現代教養コースには、文化教養モデル、コミュニティ共生モデル、法政策モデル、ビジネス探究モデルの4つのモデルがあります。各モデルが求める学生像は次の通りです。

- ・ 文化教養モデルでは、教養を広げ、文化を体系的、探究的に学びたい学生を求めます。たとえば「子育てや家庭教育、家族の問題についてきちんと考えてみたい人」「地域や文化、ことば、国際理解、数理科学などの問題に関心のある人」「健康やスポーツに関心がある人」「芸術的教養を高めてみたいと考えている人」です。
- ・ コミュニティ共生モデルでは、地域コミュニティの抱える問題に対し、その解決に貢献するための学問的基礎知識を身につけたい学生を求めます。たとえば「まちづくりや福祉活動などに携わっている人、関心のある人」「将来、地域社会でボランティアやNPO活動などへの参加を考えている人」「地域社会のリーダーを目指している人」です。
- ・ 法政策モデルでは、複雑で多様な地域社会の現象に的確に対処できる、法的な思考・解決能力の修得を望む学生を求めます。たとえば「公務員をはじめとした公共部門の仕事に就いている方で法律知識を身につけたい人」「裁判員制度や司法改革により法律が身近なものとなる中で、市民としての幅広い教養的法学を学びたいと考えている人」「将来、法律の専門職、資格取得を意識し、その基礎的法律知識を身につけたい人」です。
- ・ ビジネス探究モデルでは、現代社会で起こっている様々な問題に関心をもち、それらを経済・経営の視点でとらえる能力をもつことで、社会での実践力を養いたいと考える学生を求めます。たとえば「企業や役所等に勤める方で、業務のうえで経済・経営について学びたいと考えている人」「高校卒業後、働きながら経済・経営について学びたいと考えている人」「地域の問題に関心をもち、これを経済・経営の視点で捉えたいと考えている人」です。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

職業に関わる専門的知識・技能、および、現代社会を理解し、生活課題・地域社会が直面する課題を解決する社会人としての教養や、人間性を探求する生きがいとしての教養を、働きながら身につけるために、以下に挙げる基礎的な知識・技能・関心を有している学生を求めます。

- (1) 大学での学びの基盤となる基礎的な学力
- (2) 夜間主コースにて何を学ぶのかに関する鮮明な目標と課題意識
- (3) 自己の目標に向かって努力する姿勢
- (4) 働きながら修学を続けることに対する強い意志

【人間発達文化研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 人間発達文化研究科の教育目標と求める学生像

- ：人間発達文化研究科では、人間や地域や文化の抱える課題を自覚し、次世代を育てようとする意欲をもち、修了までに次の3つの力を身につけ、「人材育成のエキスパート」(経験を通して得た知識や技能を駆使できる熟達者)となることを希望する学生あるいは社会人を受け入れます。
- ・人間や地域や文化に対する問題意識を持ち、高度専門職業人にふさわしい知識と技能の修得(専門探究力)を望む学生あるいは社会人。
 - ・課題を解決するために必要な組織や人材を活かしながら、修得した知識や技能を学校や地域で積極的に生かそうとする能力の修得(コーディネート力)を望む学生あるいは社会人。
 - ・人間や社会の発達における文化の役割を理解し、次世代を育成しようとする能力の修得(人材育成力)を望む学生あるいは社会人。
- ：人間発達文化研究科には、教職実践専攻、地域文化創造専攻、学校臨床心理専攻の3つの専攻があります。各専攻が求める学生像は、次の通りです。
- ・教職実践専攻では、地域の教育課題について理解を深め幅広い視野を備えるとともに、授業力、マネジメント力など高い実践力を身につけ、常に学び続け、教育課程の改善や学校改革をけん引する<教員のミドル・リーダー>をめざす学生を求めます。
 - ・地域文化創造専攻では、諸文化を構成する学問分野における研究力・実践力を修得するとともに、地域支援に必要なコーディネート力及び人材育成力を合わせ持つ<地域支援エキスパート>をめざす学生を求めます。
 - ・学校臨床心理専攻では、臨床心理学及び学校福祉の臨床的な実践研究に基づき、様々な課題を抱える子ども・青年や家族・学校に対応する効果的な指導・援助・支援を行う<発達支援エキスパート>をめざす学生を求めます。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

高度職業人として、「人材育成のエキスパート」となるためには、以下に掲げる関心、知識、技能を有している学生あるいは社会人を求めます。

「人間発達」あるいは「地域や文化」に対する研究的な強い関心。

大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力。

大学院での研究に関する明確な目標と計画。

【地域政策科学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 地域政策科学研究科(修士課程)の教育目標と求める学生像

本研究科は、学際的かつ政策科学的な教育課程を通じて、地域社会が提起する諸課題に対応できる理論と応用の研究能力を高め、地域社会の各分野で中核的役割を担う高度な専門性を備えた人材を養成することを目的としています。

本研究科では、広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み、時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけようとする学生を求めています。

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

広く学際的な観点から地域の多様な政策課題に対応した研究に取り組み、時代の進展と地域社会の要請に応える高度で専門的な研究能力を身につけるために、以下に掲げる知識、技能、関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・地域的諸問題および地域政策に対する強い研究上の関心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野・領域に関する学力
- ・大学院での研究に関する明確な目標と計画

【経済学研究科(修士課程)アドミッション・ポリシー】

1. 経済学研究科の教育目標と求める学生像

経済学研究科は、広い視野に立って精深な学識を修め、専攻分野における理論と応用との研究能力を高めつつ、高度の専門的知識及び能力を養うことを目的としており、修了までに、以下の4つの能力を身につけた高度専門職業人(実務家および研究者)を目指す人材の入学を求めています。

- ・高度の専門的知識: 経済学, 経営学, 会計学の専門分野の知識
- ・応用力・実践力: 獲得した専門的知識を, 経済社会の諸課題に応用し, 実践する力
- ・研究遂行能力: 自らの問題意識のもとに研究課題を設定し, 必要な情報や知見を収集・整理し, 課題の解決に向けて分析を展開する能力
- ・論理的思考力・分析力・表現力: 蓄積されてきた知見や諸議論を論理的思考のもとに整理・分析することができ, また, 自らの主張・意見を, 論理的に説明する能力

2. 入試の際に求める知識・技能・関心

経済学, 経営学, 会計学の学問体系を基礎とした, 実践的応用力のある高度専門職業人を目指す人材として, 以下に掲げる知識・技能・関心を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・経済, 経営, 会計分野の理論的, 実践的諸課題に関する探究心
- ・大学院での研究の基礎となる当該分野や領域での学力
- ・大学院での研究に関する明確な問題意識と計画

上記の観点から, 一般入試(・専攻所属生対象特別入試)を実施し, 加えて, 多様な問題意識の志願者に対応するために次の3つの特別入試を実施しています。

- ・「社会人特別入試」は, 社会人としての経験を活かして明確な問題意識をもって研究に励もうとする, 意欲的な志願者を対象とする特別入試です。
- ・「商業科・公民科教員対象特別入試」は, 高等学校教育での経験や問題意識を基礎にして, 最新の学術知識を修得し教育の現場に還元していこうとする志願者やキャリアアップを図りたいと考える志願者を対象にした特別入試です。
- ・「修士再履修特別入試」は, 明確な目的意識のもとに, これまでの研究成果の上にさらに経済・経営分野の研究を積み上げていこうとする意欲的な志願者を対象にした特別入試です。

【共生システム理工学研究科(博士課程前期)アドミッション・ポリシー】

1 - 1 . 共生システム理工学専攻 (博士前期課程) アドミッション・ポリシー (入学者受入方針)

教育目標と求める学生像

温室効果ガスによる地球温暖化,化石資源・化石エネルギー資源の枯渇,経済発展に伴う環境負荷は,地球規模の課題となっています。自然との共生を図りながら経済発展を可能とする,新たな省エネルギー・省資源の技術開発が不可欠な状況になっています。またわが国では高齢化社会が到来し,介護・医療分野においては高度な支援が求められ,働く世代の減少に伴う産業構造の変革も求められています。

こうした課題の解決 위해서는,従来の科学技術の枠組みにとらわれず,地球規模の視野と多角的な視点を持ち,「共生のシステム科学」という新たな枠組みの中で物事を考え,対応できる力を有する人材が必要です。

共生システム理工学専攻では,人 - 産業 - 環境における共生のための新たなシステム科学の構築を志し,課題解決に向けて積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として,本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には4つの分野があり,それぞれ以下のような研究を通して,専門的な知識・技術・技能,実践的な知識運用・課題解決能力,および多角的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかの分野に興味があり,自分に適合していると考える学生を求めています。

[数理・情報システム分野]

数学,情報科学,経営システム工学,およびそれらを基礎とする数理・情報システム分野の研究

[物理・メカトロニクス分野]

物理学,機械工学,電気電子工学,制御工学,およびそれらを基礎とする物理・メカトロニクス分野の研究

[物質・エネルギー科学分野]

化学,材料工学,化学工学,エネルギー工学,およびそれらを基礎とする物質・エネルギー科学分野の研究

[生命・環境分野]

生物学,心理学,地学,気象学,水文学,およびそれらを基礎とする生命・環境分野の研究

入試の際に求める知識・技能・意欲

共生のシステム科学という新たな学問体系の枠組みの中で,地域に貢献できる実践的な力を有する専門職業人となるため,カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として,以下に掲げる知識,技能,意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに学ぶ基礎的な知識
- ・柔軟な思考力,理解力,応用力,および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と,学習・研究に対する主体性

1 - 2 . 環境放射能学専攻（修士課程）アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

教育目標と求める学生像

環境中にある放射性核種は、大気や水の循環、生物の活動などにより、その形態を変えつつ環境中をダイナミックに移動し、それを支配する因子は、放射性核種自身の物理的・化学的性質に加え、気象条件や土壌の性質、動植物の生理生態学的な特性など多岐にわたります。したがってその解明には、生態学、生物学、地球科学、現象数理学、化学、物理学、機械工学、電気工学などのさまざまな学問分野の知識を横断的に理解するとともに、俯瞰的に考察することが必要です。

これまで人類は、大気圏核実験や事故等によって人工放射性核種の環境放出を経験していますが、その影響については未解明な部分が多くあります。また、近年の高度な工業製品の開発に不可欠であるレアメタル等の天然資源の開発などに係る天然放射性核種の管理も、重要な課題となってきています。

環境放射能学専攻では、こうした課題に対応するため、人工および天然放射性核種の環境中の動態を解明し、計測、モニタリング計画、制御、予測、評価などに中長期的視点で総合的に取り組むとともに、それを環境防護、予測評価、環境修復、廃炉、中間貯蔵、浄化などの課題解決ならびに学術の発展に積極的に挑戦しようとする強い意欲を持つ人を対象として、柔軟な思考力、分析・観察力などを総合的に評価し、本専攻に相応しい人材を選抜します。

本専攻には3つの分野があり、それぞれ以下のような研究を通して、専門的な知識・技術・技能、実践的な知識運用・課題解決能力、および多元的な視点から事象をとらえようとする姿勢を育成しています。いずれかに興味があり、自分に適合していると考えた学生を求めています。

[生態学分野]

生態学、生物学、およびそれらを基礎とする放射生態学分野の研究

[モデリング分野]

地球科学、現象数理学、およびそれらを基礎とする放射能モデリング分野の研究

[計測分野]

化学、物理学、機械工学、電気工学、およびそれらを基礎とする放射能計測分野の研究

入試の際に求める知識・技能・意欲

環境放射能学という学際的な学問体系の枠組みの中で、新たなる未知の課題に対応できる実践的な力を有する専門職業人となるための、カリキュラム・ポリシーに示した科目群の履修と修士論文研究の遂行ができるための要件として、以下に掲げる知識、技能、意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学の学士課程までに獲得する基礎的な知識
- ・柔軟な思考力、理解力、応用力、および表現力
- ・現代社会の課題解決に多様な人々と協働して取り組む意欲と、学習・研究に対する主体性

【共生システム理工学研究科(博士課程後期)アドミッション・ポリシー】

1. 共生システム理工学研究科(博士後期課程)の教育目標と求める学生像

本研究科博士後期課程では、持続循環型社会の実現や、少子・高齢化問題への対策など、21世紀の課題解決に貢献できる人材の養成を目的としています。このような複雑で複合的な要因を有する課題の解決のためには、これまでの理工系大学院の中心であった自然科学に関する高度な専門知識及び研究能力だけでなく、人間科学・社会科学的な素養も身に付けた国際的に活躍できる高度専門職業人・研究者が求められています。

そこで、人 - 産業 - 環境の共生を理念とし、共生機械システム、産業共生システム、環境共生システムの3領域で研究プロジェクトを実施し、実践的な活動の機会を通して、自立して研究・開発を行う能力のある人材を養成します。これにより、人を中心とし、産業や環境との共生を考慮したシステム科学の創造、発展、継承を行い、新たな産業の創出と地域の活性化、国際貢献に寄与することを目指しています。

3領域の特色と目標は以下の通りです。

[共生機械システム]

生活の質の向上と安全・安心を求める要求に対して、深い人理解に基づき、人の特性を積極的に取り入れて機械システムを構築することが求められています。このようなシステム構築の方法を体系化することは、人と機械の次世代の共生関係を実現するために極めて重要です。本領域では、人理解科学、メカトロニクス、情報技術等に関する高度な研究・教育を行い、さまざまな産業分野において人と共生する機械システムの創出を支える、卓越した技術開発力と高度な研究能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[産業共生システム]

文理融合の視点に立ち、21世紀型の新しい産業の創出と地域振興のために、資源材料・エネルギー・産業用微生物等に関わる工学技術や、数理情報基礎、情報・コンピュータ科学に加え、産業政策や環境経済、技術経営(MOT)、経営情報システム、生産管理とロジスティクスシステム等に関する教育・研究を行い、地域特性を活かした持続循環型産業システムの創生に関する幅広い知識を備え、高度な工学的研究・開発能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

[環境共生システム]

環境システム分野の幅広い知識に加え、水や物質循環に沿った環境変化の実態についてフィールド調査、衛星観測からモデリングまでの様々な手法を活用して解析し予測することができる能力や、大気圏・水圏・地圏・生物圏・人間圏における環境保全や汚染浄化・環境再生等に関する専門技術を活かせる能力、さらに人間活動による影響について環境情報を活用して評価し持続可能な人間環境システムの管理・計画ができる能力など、高度な専門的能力を有する自立した高度専門職業人・研究者を養成します。

2. 入試の際に求める知識・技能・意欲

持続循環型社会の実現，少子・高齢化問題への対策などの21世紀の課題解決に貢献できる人材となるためには，以下に掲げる知識，技能，意欲を有している学生あるいは社会人を求めます。

- ・理工系大学院博士前期課程(修士課程)までに学ぶ基礎的な知識。
- ・柔軟な思考力，理解力，応用力，および表現力。
- ・21世紀の課題解決に取り組む意欲。